

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です、といえるのも今日が最後です。朝の涼しい空気というより冷たい空気という季節ですね。でも走り込みに最高の季節です。からだを鍛えて来年の受験勉強を乗り切れるように準備するのも今ですよ。さて、一応の区切りとなる今回は、担当動物のウサギからの発見です。



写真のウサギは、左が「むつみ」♀、右が「ゆうた」♂、どちらも「ネザーランド・ドワーフ」という品種のウサギです。血統書がついて取引されると数十万円する純血ウサギです。ところで下のぬいぐるみと似ていると思いませんか。そうです、このウサギが「ピーターラビット」のモデルとなったのです。最近では、



ペットショップでも売られているのをよく見かけます。他のウサギと比べてどこが違うのか整理してみるのも自由研究になりますね。理科の基本は「違いの発見」だからです。



さて、「むつみ」ちゃんは子育てが上手です。今回も4頭も無事産んでくれました。ところが、以前紹介したミニウサギと違ってみんな同じ色なのです。ちなみに同じ組み合わせで誕生した「こまめ」「ちまめ」ちゃんです。やっぱり同じ色です。(区別、



つきますか？幅崎は見分けられます。)純血種というのは、血統さえ確かであれば、望む繁殖ができるのですね。



ところで、「むつみ」の繁殖ケージに2種類の糞がありました。

左はコロコロした普通の糞です。でも右は、つやがありブドウの粒のような糞です。これは盲腸糞といって消化途中の栄養分を一度排泄し、再び食べるものなのです。

植物は、消化するのが大変なのです。草食動物は、いろいろな工夫をして栄養分の少ない草を効率よく消化吸収しているのですね。ウシとウマ、どちらも家畜ですが糞の様子はずいぶん違います。キリンとゾウ、ラ

クダとシマウマなんかを比べてみるのもおもしろいですよ。今度標本を持って行きますよ。(ウサギ目ウサギ科)

個体識別



春には全く区別のつかなかった動物たちも見分けることができるようになりました。チンパ館「マチカ」の資料が配られたようですが、観察してみましたか。ちょっとした違いを発見することが大切な

なんです。でも、数の多いサル山の「ニホンザル」やカモフラージュの得意な「は虫類」となるとちょっと難しいですよ。キーパー(飼育員)の仕事の基本は、動物の観察ですが、理科の学習の基本と全く同じでした。



半年もの長い期間動物園で観察できた結果、多くの教材をゲットできました。動物園の役割の一つに「教育施設」というのがあるのですが、学校の授業とつながらないことも多く、そのイメージはあまりないでしょうね。でもこの半年間で、教材としての使い方を一杯、学習しました。教師は自ら学ぶものなのです。その姿を感じてくれましたか。では、今度は学校で。